

学生さんに聞きました!



谷本 明子さん
一貫性博士課程4年

とある一日

- 10:00 研究活動
- 13:00 午後のミーティングに備えた調査・分析
- 16:00 UNESCOプロジェクトミーティング参加
- 20:00 報告書作成・メール対応

UNESCOで人事データ分析などに参画

IT企業で働いた後、京都大学に入学したものの研究テーマの選定に悩み、複数指導教員制度に魅力を感じて思修館に入りました。学部では教育学を専攻し、プログラミング教育の研究をしていましたが、大学院では主指導教員の研究を引き継いで、人口規模に対する適切な代表者数について数理モデルを立て、社会組織やマネジメントへの応用を目指して研究しています。

先生の紹介で国連教育科学文化機関 (UNESCO) の人事担当者に会ったところ、ちょうど人事ソフトウェアを入れ替えるところでIT人材を探しており、私が国内外の課外活動で採用・教育に携わっていた経験も活かそうだと「武者修行」の場を選びました。今はUNESCOの人事に関するデータ分析やシステム移行のプロジェクトに関わる他、各種研修プログラムの企画運営を行っています。

思修館に入った後も国際協力にはほとんど興味がなかった私ですが、2年次に大学院のカリキュラムでミャンマーの農村地域へ行ったことが契機となり、「世界のために自分の強みを活かしたい」と国連機関を志すようになりました。今は社会全体としてIT活用に伸びしろがあるので、活躍の好機をつかめそうだと感じています。思修館で学びたいと思っている人は、まず自分にどういった強みやスキルがあるかを考え、それを専門性として磨き上げることで、国際協力を含めた活躍の場を見つけてほしいです。



パリのUNESCO本部にて

学生サポート+

半年以上の武者修行

思修館の必須プログラムの一つで、海外の国際機関、NGOなどに派遣される形で、最低6カ月のフィールドワークを行う。3年次から挑むことができ、近年の派遣先は国連開発計画 (UNDP)、国連食糧農業機関 (FAO)、経済協力開発機構 (OECD) などに加えて、欧米の大学や研究施設もある。

学生は現状・動向の分析、調査活動、交渉・国際セミナーへの参加といった実践的経験を通じて、研究テーマの理論化や課題解決を目指す。ただし現在はコロナ禍のため、渡航せずオンラインで派遣先とやりとりしている。

指導教員は日常的にメールなどで学生と連絡を取り、研究から生活面まで支援する。

教員より

ハイレベルな国際交渉を体験して

私は国連環境計画 (UNEP) の協力企画官を務めたり、日本の地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS) でクロアチアの土砂災害軽減計画に参加したりしましたが、2011年の東日本大震災で「日本にも解決すべき課題は多い。海外支援は意欲ある人に任せて、自分は研究とサポートに回ろう」と思いました。思修館の設立と同時に採用されると、さっそく私が主導して京都大とUNEPの間で連携協定を結び、続けてSATREPSの合間を縫って国連食糧農業機関 (FAO) の本部があるローマへ赴くなど、多くの協定締結に関わりました。思修館の武者修行で学生をさまざまな国連機関へ派遣できるのには、こうした背景もあります。

国連機関にこだわるのは、ハイレベルの調整・交渉を肌で感じて、世界規模の課題を解決する能力・胆力を養ってほしいから。2019年にアリゾナ大学 (米国) で宇宙飛行士を交えたスペースキャンプを行うなど、新たな挑戦もしています。他の大学院にはない「修行」を望む学生を歓迎します。



フランスでの世界水フォーラム



山敷 庸亮先生
総合生存学館 (思修館)
教授

地球惑星科学 (水資源工学、水環境工学、太陽地球系科学) が専門。

京都大学大学院

総合生存学館 (思修館)



3階には第三研修施設もある総合生存学館

大学DATA

- 取得可能な学位：修士、博士 (総合学術)
- 定員：20人
- 学費：入学金28万2,000円、授業料53万5,800円 (年間)
- 奨学金制度：あり (日本学生支援機構の奨学金、入学金・授業料免除など)
- 所在地：〒606-8306 京都府京都市左京区吉田中阿達町1 東一条館1階
- TEL：075-762-2001
- MAIL：info.shishukan@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
- HP：https://www.gsais.kyoto-u.ac.jp/

独自授業で知識とリーダーシップを習得

2013年、京都大学大学院に5年一貫制 (博士課程) の「総合生存学館 (通称・思修館)」が設立された。理系・文系を問わず多様なバックグラウンドを持った学生が合宿型研修施設で交流・対話しながら生活し、環境・エネルギー、貧困、ジェンダーなど地球規模の課題を解決できるグローバルリーダーを目指す。

学生の学問背景や研究分野、目標が多岐にわたるため、思修館では一人一人に応じた「テーラーメイド型カリキュラム」を採用。経験豊かな複数の教員の助言を受けながら、5年間の学修計画をデザインする。さらに「複数指導教員制度」により、専任教員以外に、他の研究科を含めた別の教員からも指導を受けられる。

特徴的な授業の一つに、総合的な学術基盤の「八思」がある。八思とは医薬・生命、情報・環境、理工、人文・哲学、経済・経営、法律・政治、語学、芸術の8分野を指し、学生は自分の専門分野に最も近いもの以外の七つの分野から講義を履修する。これにより社会を俯瞰的に見渡し、国内外のリーダーと討議できる知識や提案力を養う。

1〜2年次には、京都市や近隣の福祉施設などでボランティア活動を行い、規範意識や社会性、行動力を養う「サービスマーケティング」、国際機関や行政、企業などのリーダーと社会の課題について討論する「熟議」も行われる。

3年次以降の「武者修行」では、学生が自ら選んだ海外の国際機関や企業、NGOで実務に参加し、リーダーシップや責任感、突破力の増進を図る。「武者修行」実施後には、武者修行を含めた研究成果を活かして学生が課題解決プロジェクトを提案し、資金獲得も行う「プロジェクトベースリサーチ (PBR)」があり、博士論文にも組み込まれる。